

表 3 主な感染症とワクチン

感染症	ワクチン
A 型肝炎	A 型肝炎ウイルスは患者の便の中に排泄されます。ウイルスに汚染された食品や飲料水を介しても感染します。潜伏期間は 2～6 週間で、発熱、倦怠感、黄疸などの症状、血液検査では肝酵素の上昇が認められます。安静や対症療法で治療し、治るまでに 1 か月以上かかることが多いです。衛生環境の良くない途上国へ渡航する人に対して、接種が推奨されます。2～4 週間あけて 2 回接種し、初回の接種から 6 か月後に 1 回の追加接種を行います。2 回の接種を完了すれば、発病を予防できる一定に免疫がつくと考えられますが、3 回目の追加接種で免疫はより強くなります。
B 型肝炎	性行為や医療行為等から感染します。途上国では流行しており、アジア、アフリカ、南米が高度流行地域です。発病すると長期の入院になるだけでなく、一部は劇症型となり死亡することもあります。4 週間あけて 2 回接種し、20～24 週後に 1 回の追加接種を行います。
破傷風	破傷風の病原体は土の中に潜んでおり、けがをして傷口から侵入します。最初は口が開きにくいことで気づき、けいれんしたり死亡することもあります。けがをしてから医療機関を受診し、破傷風ワクチンの接種を受けることもできますが、海外滞在中は医療機関の受診がしづらいこともあるかもしれませんので、その分発病のリスクが高くなります。事前の接種が推奨されます。3～8 週間あけて 2 回接種し、6～12 か月後に 1 回の追加接種を行います。
狂犬病	採用している狂犬病ワクチンの製造が中止となり、現在新規の予約受付ができない状況になっております。ご迷惑をおかけし申し訳ありません。9月以降、ご連絡をお願い致します。
黄熱	アフリカや南米の熱帯地域に多い病気です。黄熱ウイルスに感染した蚊に刺されることによってうつります。流行国への入国時、あるいは流行国から当該国への入国時に国際予防接種証明書（イエローカード）の提示が求められる場合があります。黄熱流行地や接種証明書を要求する国の情報は常に新しくなっており、厚生労働省検疫所のホームページ「黄熱について」（ www.forth.go.jp/useful/yellowfever.html ）で最新情報を確認してください。
麻疹 (はしか)	国内で流行の報告がされていますが、途上国でもまだ多くの患者が発生しています。一方で、欧米諸国では麻疹は一掃されており、日本人が麻疹を持ち込むケースも報告されています。肺炎と脳炎の合併症は麻疹の 2 大死因と言われており、1000 人に 1 人が死亡する重い感染症です。いずれの国に滞在する場合でも、「麻疹にかかったことがあるか」、「予防接種を 2 回受けたか」をご確認ください。どちらでもなければ、ワクチン接種を受けておくことが推奨されます。血液中の抗体価を調べ陽性であれば免疫があることとなりますので、接種の必要はありません。